

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	医薬品安全学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年	学期及び曜時限	後期	教室名	4校舎502
担 当 教 員	土田 勝己	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
医薬品は過剰摂取や不適切な用法によって不都合な状態となることは広く知られているが、用法用量を守っていても、副作用として血液検査値の変動が現れたり、摂取した食材や嗜好品によって薬効の増強或は減弱がおこる。この講義では医薬品を安全に摂取するための知識として相互作用を中心に伝える。					
《成績評価の方法と基準》					
試験素点×0.7 + 出席点20点 + 平常点(小テスト)10点					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
配布プリント					
《授業外における学習方法》					
配布プリントには十分に目を通しておいください。また、次回講義内容についての十分な予習、そして講義で学んだことについての復習もきちんとしておいください。					
《履修に当たっての留意点》					
医薬品を安全に有効に使ってもらえるよう相互作用についての引き出しを作れるように学習してください。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	血液一般検査結果に影響を及ぼす薬剤について説明できる		オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
	各コマにおける授業予定	赤血球数に影響を及ぼす抗てんかん薬、抗菌薬、抗リウマチ薬、抗悪性腫瘍薬、アザチオプリン、インドメタシン、クロルプロパミド、チクロピジン、プロカインアミド、メチルドパ、メトトレキサート、ジドブシン、ヒドロキシカルバミド、ビタミンB6拮抗薬の			
第2回	授業を通じての到達目標	血液一般検査結果に影響を及ぼす薬剤について説明できる		オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
	各コマにおける授業予定	好中球減少現象薬剤、白血球数に影響を及ぼすNSAIDs、抗リウマチ薬、ペニシリン系、リファンピシン、サルファ剤、抗痙攣薬、抗うつ薬、H2ブロッカー、ACE阻害薬、糖尿病用薬、抗不整脈薬の解説			
第3回	授業を通じての到達目標	血液一般検査結果に影響を及ぼす薬剤について説明できる		オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
	各コマにおける授業予定	好酸球増加起因剤、ヨード含有製剤、抗生物質、サルファ剤、ゾニサミド、バルプロ酸、ペニシラミン、金製剤、NSAIDs、プシラミン、ピモベンダン、テモカプリル、ナファモスタット、バトロキシビンの解説			
第4回	授業を通じての到達目標	電解質・鉍質検査に影響する薬剤について説明できる		オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
	各コマにおける授業予定	Ca異常起因薬剤;高Ca血症を起こす薬剤;ビタミンA, ビタミンD製剤、カルシウム剤、甲状腺末、サイアザイド、アミノフィリン、アルミに共有無製剤、蛋白同化ホルモン、性ホルモンについて解説			
第5回	授業を通じての到達目標	電解質・鉍質検査に影響する薬剤について説明できる		オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
	各コマにおける授業予定	Ca異常起因薬剤;低Ca血症を起こす薬剤;アセタゾラミド、フロセミド、カルシトシン、コルチコステロイド、アルカリ性制酸剤、EDTA、フェノバルビタール、フェニトイン、カルバマゼピン、メチシリン、シスプラチン、ビスホスホネート製剤、Ca受容体作動			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	電解質・鈣質検査に影響する薬剤について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	高Ca、低Ca、高P、低Pの組み合わせについて解説		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	グレープフルーツと相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	アミオダロン塩酸塩、フェキソフェナジン、ベラパミル塩酸塩、カルバマゼピン、サキナビルメシル酸塩、ジアゼパム、シクロスポリン、シロスタゾール、シンバスタチン、タクロリムス水和物、トリアゾラム、ニトレンジピン、ニフェジピン、ピモジド、フロチゾラムに		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	カフェインと相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	プロカテロール、ジアゼパム、シメチジン、テオフィリン、フルボキサミンマレイン酸塩、メキシレチンについて解説		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	セントジョーンズワートと相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	アミオダロン塩酸塩、アミトリプチリン塩酸塩、ベラパミル塩酸塩、カルバマゼピン、シクロスポリン、シンバスタチン、タクロリムス水和物、テオフィリン、フェニトイン、フェノバルビタール、リトナビルについて解説		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビタミン類と相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	テトラサイクリン、フェニトイン、硫酸鉄、ワルファリンカリウム、		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルコール、チラミンと相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	アミトリプチリン塩酸塩、塩酸フェニルプロパノールアミン、カルバマゼピン、ジアゼパム、シメチジン、硝酸イソソルビド、スルピリド、トルブタミド、ピモジド、フェノバルビタール、プロモクリプチンメシル酸塩の解説		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	タバコと相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	アミトリプチリン、プロプラノール塩酸塩、メキシレチン塩酸塩、リトナビル、リルゾールについて解説		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	その他の食材と相互作用のある医薬品について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	クエン酸第一鉄ナトリウム、クロルプロパミド、水酸化アルミニウムゲル、セフニジル、ゾルミトリブタン、炭酸リチウム、ピサコジル、プロブコール、ペニシラミン、メトレキサートについて解説		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬物代謝について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	薬物代謝酵素CYPについての解説(酸化・還元・抱合)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	総復習の実施により理解度を確認し今後の課題について説明できる	オリジナルプリント	配布プリントを読み込んでおき、ノートに纏める
		各コマにおける授業予定	第1回目講義から14回目講義の内容についての振り返りを行い、理解度を確認する		